

◆ コスモエネルギーホールディングス（5021）

2020 年度 第 1 四半期決算 アナリスト・機関投資家向け決算説明会 質疑応答

---

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。 －

1. 日時 : 2020 年 8 月 14 日（金） 18 時 00 分～19 時 00 分
2. 出席者 : 75 名
3. 主な質疑内容 :

Q1:石油精製マージンの動向に関して、計画と比べて 1Q 実績、また足元 7、8 月はどうなっているか。

A1:精製マージンに関しては、ほぼ想定どおり。1Q 実績については、油価下落局面もあったが、それを織り込んだ上で我々は計画をたてていた。2Q 以降についても例年並みのマージンが確保できるのではないかと考えている。

Q2:ヘイルの水攻法投資について、先送りになった背景を教えてください。

油価が損益分岐を下回ったという評価なのか。

A2:ヘイルの水攻法投資を先送った理由については、損益分岐油価ということではなくて、現状のキャッシュフロー等全て総合的に勘案した上で先送りという結論に至った。今後についても状況をよく鑑みながら検討する。

Q3:1Qの法人税等について還付になっているが考え方を教えてください。

A3:通期の業績予想は、当期純利益が確保できる前提の中で、第 1 四半期は税前の利益が、在庫評価の影響を主因とし、赤字となっている。通期で黒字ということで、四半期決算上は、税金の戻りという形で、決算を行っている。第 2 四半期以降黒字が確保できる過程では、その黒字に見合った税金費用を計上し、年度では一般的な税率に収斂すると考えている。

Q4:石油化学事業の価格要因、今期の見通しに関して教えてください。

A4:価格影響は HCP と丸善石油化学が主要因。丸善石油化学においては、ナフサ購入が前期より期ずれし、一時的にマージンを押し下げた。エチレン-ナフサのスプレッドは良化していることや、丸善石油化学は基本的にはコスト連動で大半を仕切っていることから、2 Q 以降それなりの収益が出てくると思っている。ただ、パラキシレン市況が見立てよりも弱く、総合すると現状の公表した利益は下振れてくる可能性がある。

Q5:キャッシュフローの見通しに関して教えてください。

A5: 1 Q は非常にボラタイルな季節要因が出てしまうが、ここがボトムだと考えている。通年では、フリーキャッシュフローのマイナスは削減され、300 億～400 億円前後のマイナスと考えている。投資

の負担が大きい年度であり、それを加味するとどうしてもフリーキャッシュフローはマイナスで見ざるを得ない。しかし、1 Qは運転収支にて期ずれ等の特殊要因もあり、在庫影響も含め少し悪めに出ている。この点に関しては、2 Q以降戻ってくると考えているため、1Q実績はネットD/Eレシオで3.09となったが、通期では2020年3月末程度の水準で着地すると見ている。

Q6: 1 Qでマイナスのタイムラグ影響がどのくらい出ている、今後回収可能か教えてほしい。

A6: タイムラグという言葉が定義として正しいかどうか判じかねるところがあるが、我々は受入原油の積みベースと揚げベースの差をタイムラグと申し上げている。概ね7月、8月で50億規模のタイムラグの回収ができると考えており4-6月で取りこぼしている部分は7、8割戻ってくると思っている。

Q7: 1Qで発生したマイナスのタイムラグは原油価格がどの水準まで回復すれば回収できるのか。

A7: そのときのマージン環境にも左右されるため原油価格で回答することは非常に難しい。

Q8: SDベースの稼働率が前年比で7.4ポイント落ちた理由を教えてください。

A8: トラブル要因と一部ジェット燃料の需要減少に伴う需給の調整をおこなった等の影響。

Q9: 設備投資に関して一部先送りを行うということだが、どの程度先送りを実施するのか。

A9: ヘイル油田の水攻法投資、ERPといった投資で、計400億円規模の投資の先送りを実施する。しかしながら、2020年度の通期計画の中ではこれらの投資の先送り効果はなかなか出てこない。2020年度の通期計画の中では、さらに中規模、小規模の投資の先送りを積み上げていき、1,000億を超えていた設備投資を1,000億の範囲内におさめている。

Q10: 2020年度の設備投資額985億のうち、ベース投資と成長投資は何割程度か。

A10: 1,000億弱規模の投資のうち、400億円規模はベース投資に係る投資で残りが戦略的な、いわゆるネットプレゼントバリューを追い求める投資やERPの更新等。

Q11: ハイオクに関する報道があったがPLに影響を与えるのか。

A11: PLに影響するような状況は、現時点では見出されていない。事業計画や販売活動等、そういった影響は現状無い。

Q12: 洋上風力プロジェクトの進捗と今後のスケジュールを教えてください。

A12: 秋田の由利本荘市沖が促進区域に指定されたので、ここが最初のターゲット。

最終的には入札で事業者が決定されるが、事業者の選定が最短で来年の夏頃。

青森西北沖に関しても、有望区域に指定され、これから促進区域指定に向けて、起動している。

秋田港・能代港については、既に着工しており2022年の運転開始に向け、順調に進んでいる。

Q13:1Q実績で各セグメントでの上振れ、下振れ要因について教えてほしい。

A13:石油セグメントでの4品販売数量はガソリンを中心として少し弱めに計画していたが実績は上振れしている。ジェットの販売数量がそこまでは悪くなかった点も上振れ要因。さらに上振れ要因で言うと、タイムラグ。2Q以降50億円程度は回復できるだろうと見ている。計画には、タイムラグは織り込んでおらず、通年で考えたときには上振れ要因となる。

石油化学セグメントは市況等が下振れ要因となっている。

石油開発セグメントについてはこのまま原油価格が40ドルで推移すれば、価格影響として確実に上振れ要因となる。

原油価格や販売数量に関して、今後の動向が不透明な部分もあり、現状足元上振れしていることは間違いないが、今回は計画を据え置きとしている。

Q14:四品の販売数量が前年比で好調だったかと思うが計画比ではどうか。

A14:四品の販売数量は計画比でも105.6%となっており、好調であった。

Q15:石油開発セグメントの原油生産量が高い水準の生産量になっていると思うが要因を教えてほしい。

A15:アブダビ石油での既存油田が比較的好調であった。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれておりません。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。